

第43回大分県病院学会 演題番号通知

ご登録いただいた演題は口演発表に決定いたしました。

演題番号： D●

*演題番号先頭のアルファベットは発表会場、2・3番目の数字は発表順を示します。

*演題番号通知書類一式の到着確認も兼ねておりますので、内容をご確認後、メール本文下部の連絡票に必要事項をご記入して4月21日(月)までにご返信ください。なお、下記LINEアプリを利用してご返信いただいても結構です。その際は連絡票の必要事項をご記入の上ご返信ください。

1. 発表までの準備について

(1) 登録内容の確認

添付ファイルの最終頁のプログラム(案)にて発表会場と発表順番、記載内容をご確認ください。記載ミスや変更等がありましたら、連絡票の「その他連絡事項」欄にご記入ください。

(2) 発表準備

発表原稿※は8分でご用意ください。口演発表は原則マイクロソフトパワーポイント(以降PPTで表記)を使います。下記の規定に沿って作成してください。

※利益相反に関するご発表はお控えください。

(3) 事前参加登録の申込

発表者も参加登録が必要です。会員病院所属の方は、4月下旬以降に病院を通じて事前参加登録をしてください。事前参加登録をお申込みいただかないと、プログラム集は届きません。病院附属施設(クリニック等)に所属の方は、貴院のご担当様へご確認をお願いいたします。会員外の方も勤務先内でとりまとめてお申込みください。

(4) 参加証・プログラム集受取

学会開催1か月前に会員病院様・勤務先へまとめてプログラム集を送ります。プログラム集を受け取られましたら、ご自分の掲載事項や発表時間帯などの確認をお願いします。また、今後の予定はプログラム集の「学会参加の皆様へ」の頁でもご確認ください。

(5) PPTファイルの作成について

① PPTのデータについて

原則としてバージョン2010以降(拡張子.pptx)にて作成してください。動画を使用される場合は、必ずパワーポイントへ動画ファイルを直接挿入(埋込式)してください。

② スライドのサイズについて

原則、ワイド画面(16:9)にて作成してください。

③ 発表者ツールについて

発表者ツールの使用を推奨いたします。ご使用にならない場合は当日受付にてお申し出ください。

(6) PPT事前提出について

① 提出期限 7月7日(月) 事務局必着

PPTスライドファイルは必ず事前に事務局までご提出ください。会場パソコン(以下PC)に載せてご用意します。PPTを使用しない場合は、連絡票にて事務局までご連絡ください。

② 提出方法 (以下、***は自分の演題番号を示します)

◎ Eメール添付の場合

[宛先] oha2@oitahospitals.jp

[件名] 学会PPT提出 演題番号:***

[本文] 勤務先名、発表者名、連絡先電話番号

[添付] ***.pptx (もしくは***.ppt)



PPT 画像圧縮方法



大容量ファイル転送サービスの利用方法

○PPTファイルのサイズは原則5MB以内とします。PPT等の画像圧縮機能をご利用ください。また、動画をご使用の方でサイズが大きくなった場合は、インターネットの大容量無料ファイル送信用サービス（ギガファイル便、データ便、おくりん坊 等）のご利用も可能です。

○送信後2～3日経っても返信がない場合は、お電話にて事務局までご連絡ください。

◎ 郵送、宅配の場合

○提出メディアはCD-R、若しくはDVD-Rにてご提出ください。但し、汎用に再生できるようにファイナライズ等のセッション終了を行ってください。なお、提出されたメディアの返却は致しません。

○封筒およびメディア本体に「学会PPT提出」「演題番号：***」を、さらに封筒に「勤務先名」「発表者名」を明記して事務局宛にお送りください。

(7) その他

任意ですが、事務局からの個別の連絡（抄録記載内容の確認、提出物の確認等）のためのLINE登録のご協力をお願いします。4月21日（月）までに右のQRコードを読み込み、トーク画面に演題番号を入力されご送信ください。学会終了後には事務局のトークルームを削除していただいて結構です。何卒ご協力のほどお願いいたします。



事務局 LINE

また、出入り自由で登録できるオープンチャットも開設しました。主に事務局からの情報発信・伝達用に使用します。トークルームで「学会発表者」を選び、参加コードは「oha5526」を入力してすすみます。登録後は画面右上の三本線よりノートの内容をご確認ください。



オープンチャット

なお、こちらは匿名ですのでプロフィール・演題番号等、個人の情報の入力是不可です。
※すでに「大分県病院協会」のトークルームに登録されている方は、オープンチャット「大分県病院協会」トークルーム画面上部の三本線→トーク一覧→「学会発表者」と選択してください。

2. 口演発表当日について

(1) 受付

8時から11時までの間にエントランス「発表者受付」にて必ずPPTの動作確認を行ってください。**発表会場では動作確認はできません。**その後、「記章」をお受け取りください。受付時間に間に合わない場合は、11時までに大会本部までご連絡ください。その際は演題番号とお名前をお知らせください。

◎大会本部 TEL 097-540-5526 若しくは 080-6448-9405（SMSも可）、LINE

(2) PPT 差替え

受付時間内にUSBメモリー若しくはCD-R、DVD-Rで持ち込んだ場合のみ対応します。サイズは原則5MB以内とします。なお、**発表会場では差替えできませんのでご注意ください。**USBメモリーについては、各自で必ずウイルスチェックを行ってからご持参ください。CD-R、DVD-Rの場合は汎用に再生できるようにファイナライズ等のセッション終了を行ってください。差替えにより発表時に不備が発生した場合等のトラブルには実行委員会では責任を負いませんのでご了承ください。

(3) オリエンテーション

12時50分より会場責任者からの説明、および座長との打合せがありますので、必ずご出席ください。発表の流れを次ページの「発表者 連絡事項」を元に説明しますので、こちらを必ずご持参ください。打合せ終了後、13時00分より開会式がありますのでご参加ください。

(4) 発表時間・発表形式

発表は8分、質疑を含めて10分です。進行は座長・進行係の指示に従ってください。

PCを演台に設置していますので、発表者がPPTの操作をお願いします。補助が必要な場合は各自でご手配ください。その際のPCの移動は座長による発表者紹介時間内に行ってください。

(5) リミタイマー（デジタル計時回線）について

発表進行はリミタイマーを使用し、座長・発表者へ時間を通知します。開始後7分で通知音（黄色点灯）、8分で通知音（赤点灯）にて合図します。

以上

発表者 連絡事項 (D会場 : 小会議室 31)

《当日の流れ》

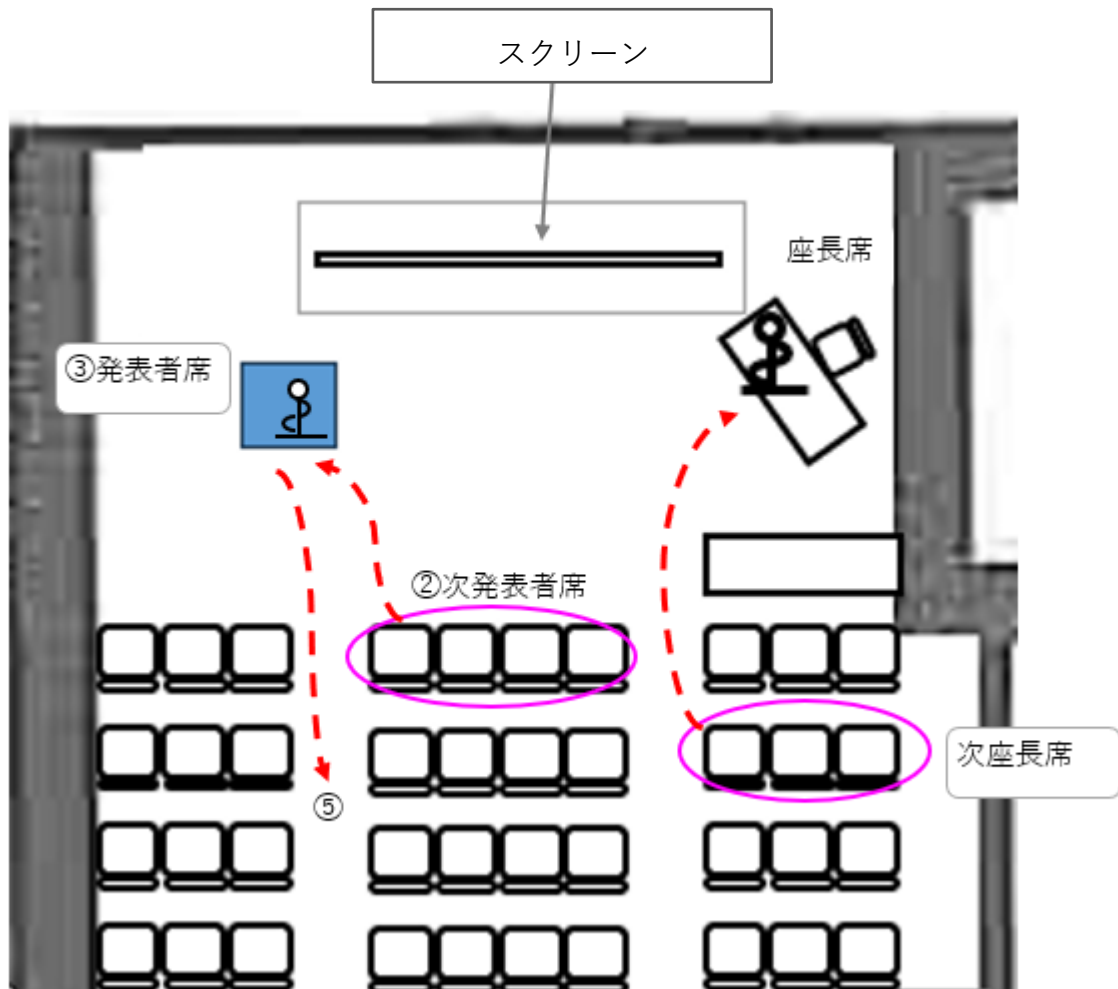
- ・ 8:00~11:00 受付 差し替えは受付時間内にお済ませください。会場内では出来ません。
- ・ 12:50~13:00 オリエンテーション (発表会場へお越しください。)
- ・ 13:00~13:10 開会式
- ・ 13:10~15:50 分科会

《発表について》

- ① 自座の開始時には会場内に着席 (下図①参照)。
- ② 1題前の発表者の登壇時には、次発表者席へ (下図②参照)。
- ③ 座長が「演題」と発表者の「所属」、「氏名」を紹介するので、その間に登壇し、座長の開始の指示を待つ (下図③参照)。
- ④ 発表開始。質疑応答を含めて10分。リミタイマー:7分で通知音 (黄色点灯)、8分で通知音 (赤色点灯)。
発表者の交代や抄録内容に訂正がある場合は、自分の持ち時間内に行う。
- ⑤ 質疑応答が終わり、座長の指示に従って降壇 (下図⑤参照)。

注)『記章』は退会時にエントランスホール内の総合案内までご返却ください。

7. D会場 : 小会議室 31



一般演題目次

【 □演 D会場：小会議室31 】

分科会開会式 13時00分 1題持ち時間10分（発表8分・質疑2分）

演題 番号	登録 番号	【カテゴリ】 項目	演題 副演題	会員病院名 発表者（職種）
1座 13:10～14:00				
D01	76	【研究・調査】 その他	高齢者における両側性機能低下をきたす要因について ～注意機能及び認知機能との関連性～	若宮病院 道田 周明（理学療法士）
D02	88	【治療・リハビリテーション】 回復期	回復期リハビリテーション病棟での心不全管理の自動化 ～RPAを活用したDX戦略とその成果～	大分リハビリテーション病院 香月 康太（理学療法士）
D03	89	【地域連携】 入退院支援	当院回復期病棟退院後の実態調査への取り組み	川崎整形外科病院 斉藤 直人（理学療法士）
D04	142	【治療・リハビリテーション】 急性期	末梢神経ラジオ波焼灼療法後の運動療法戦略 ～変形性膝関節症治療の新しい取り組み～	五反田病院 川渕 優太（理学療法士）
D05	17	【治療・リハビリテーション】 回復期	嚥下障害に対し反復末梢磁気刺激治療を用いた症例	諏訪の杜病院 大杉 知央（言語聴覚士）
休憩（5分）				
2座 14:05～14:55				
D06	85	【治療・リハビリテーション】 回復期	脳卒中片麻痺の膝安定性向上を目的とした歩行練習 ～長下肢装具から短下肢装具への移行を図った1症例～	別府リハビリテーションセンター 後藤 陸斗（理学療法士）
D07	34	【治療・リハビリテーション】 回復期	入院患者における歩行ロボットPhysibの取り組み ～非実施群との移動FIMでの比較～	和田病院 下山 幸佑（理学療法士）
D08	140	【治療・リハビリテーション】 回復期	膝前十字靭帯断裂後の保存療法での早期競技復帰例	五反田病院 森山 千広（理学療法士）
D09	139	【治療・リハビリテーション】 維持期・生活期	How to move ～這う動作を地域リハビリテーションに活かす～	五反田病院 山本 芳樹（理学療法士）
D10	110	【治療・リハビリテーション】 その他	内側縦アーチに着目して膝関節痛が軽減した症例	若宮病院 末吉 啓悟（理学療法士）
休憩（5分）				
3座 15:00～15:50				
D11	50	【治療・リハビリテーション】 緩和ケア	意味のある作業がセルフケアに好影響を及ぼした1症例 ～終末期の特発性肺線維症患者に対する作業療法～	大分記念病院 阿部 真也（作業療法士）
D12	83	【治療・リハビリテーション】 その他	当院における人工膝関節全置換術後の中期成績の報告 ～キネマティックアライメント法を用いて～	内田病院 土谷 雄世（理学療法士）
D13	46	【治療・リハビリテーション】 その他	回想法により意欲の向上、活動量の増加が図れた事例	黒木記念病院 田中 秋佑（作業療法士）
D14	148	【治療・リハビリテーション】 回復期	長期免荷後のTHA術後症例が屋外歩行を達成した一例 ～訪問リハビリテーションとの連携を通じて～	明野中央病院 河津 紫音（理学療法士）
D15	61	【治療・リハビリテーション】 回復期	ロボット歩行練習と電気刺激療法を併用して行った介入 ～頸髄損傷により不全麻痺を呈した症例に対して～	別府リハビリテーションセンター 伊藤 永晟（理学療法士）